

食品寄附等に関する DX 分科会（第 3 回）の主な意見と今後の予定

令和 6 年 1 2 月 2 5 日（水）

1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

【ベース・レジストリの整備状況について】

（オブザーバー 一般社団法人全国フードバンク推進協議会（米山 廣明））

- 運営主体が分かるようなフォーマットになれば、企業が寄付の際に実態としてどの団体が運営しているのかが分かる。また、ベース・レジストリの性質上、他の申請手続きにも活用することが想定されるので、実施主体が明確でないとその目的を達せられないだろう。実際の運営団体の正確な情報を記載できるようなフォーマットにしていただけると有難い。
- 企業側がフードバンク、こども食堂、直接支援組織、中間支援組織に負担を求めやすいフォーマットになっている。寄附行為であるため、受け入れ側に負担を求めないという前提のフォーマットにしていただけると中間支援組織、直接支援組織としては有難い。

（オブザーバー 一般財団法人食品産業センター（大石 聡））

- 「資料 1」 P. 6 において、ベース・レジストリに必要な項目についての意見の記載がある。活動団体の信頼性をどのように見える化するのかがいいか、という内容が書かれている。ゼロか 100 かではなく、それぞれの主体が、情報を見ながら判断することになる。これらの意見を踏まえた項目が BR 項目のどの部分に反映されているのか。資料 1 の項目案で判断できると言えるか、意見が気になる。スタート段階では（項目を）多くすると重くなるのでいいとしても、最終的にどのようなレベルを目指すのか、どの程度の情報があれば、信頼性の判断が出来るのかという点で、意見を踏まえて取舍選択があって然るべきではないか。

（構成員 株式会社ブライセン物流流通本部ゼネラルマネージャー 恩田 明）

- 寄附者側とすると、直接支援組織が「何人に対して何食提供したか」等の過去実績があれば判り易いかもしれない。組織自身の信頼性は、何かしらの担保が必要だと思うが、実績はなかなか知ることが出来ない。ベース・レジストリの中で「過去実績が見えるような情報」があれば、如何に取り組んできた組織であることが分かるのではないか。
- ベース・レジストリの取り組み自体をあまり知らない団体もあろう。食品寄附者、

中間支援組織、直接支援組織などの事業者以案内・アナウンスを行い、登録を増やしていくことが必要であると思う。検討いただきたい。

【食品寄附におけるデータ標準化ガイドライン（案）について】

（構成員 株式会社ブライセン物流流通本部ゼネラルマネージャー 恩田 明）

- 「総数」に関し、荷姿が、「バラ」なのか「ケース」なのか明確化したほうが良い。
「JAN コード」が任意となっているが、ケースの場合は、GTIN の ITF コードも入れられる方がいいのではないかと。賞味期限は推奨となっており、1つしか入れることが出来ないが、複数ロットある場合があるので、1つではなく、文字列で x 月 x 日の分、という形で入れられるようにしたほうが良いのではないかと。

（オブザーバー 一般社団法人全国フードバンク推進協議会（米山 廣明））

- 推奨と任意は、入力が推奨／任意ということか。標準化の上では、フォーマットが企業や団体ごとに変わるのは良くない。出来るだけ様式が同じであることが望ましい。フォーマットの加除が多すぎると標準化する意味がなくなる。フォーマットは同じであるものの、記載が必要ではないものは空白にすることでいいのではないかと。フォーマット自体に大きな変更が生じないほうが良い。
- 食品提供方法、寄附理由、寄附予定日等毎回同じ内容を入力しないといけない場合は大変である。企業が複数の食品を寄付する場合、一度の入力で済む共通項目と、個別記載部分を分けていただけると良いのではないかと。

（オブザーバー 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ（西川 貴清））

- データ項目の標準化のため、補正予算でこども食堂への調査を行うと思うが、こども食堂の調査対象はどのように選定するのか。

（オブザーバー 一般財団法人食品産業センター（大石 聡））

- 「食品寄附におけるデータ標準化ガイドライン」の項目と「食品寄附ガイドライン」の項目がどのようにリンクしているか、過不足がどのようにになっているかの整理をお願いしたい。
- 本プロジェクトには活動団体が入っているので、実態に合った項目になっているとは思いつつ、食品寄附事業者の意見をどのように反映しているものかはわからない。実態に即しているものなのかが理解できていないところである。商品コードをあえて JAN コードではないものとするのがいいのか、疑問に思うので、最終的な整理ま

で確認いただきたい。

【食品寄附における API 仕様書の作成状況について】

※質疑応答はなかった

【実証事業について】

（構成員 CiPPo 株式会社代表取締役 横山 哲也）

- 寄附を受ける側が商品を選択するとなると、制限なく受領できるのか。それとも規模によつての規制等はあるか。

（構成員 慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛 義徳）

- 「検索・予約希望」の画面があるが、寄附のマッチングが動いているかどうかはここで判断し、上手く分配するのは機能として具備するのか。機械と機械でマッチングすると、ミスマッチであったり、「動き」が無かったりすることがある。コーディネーターが、人によるマッチング実施や、分配をすることもある。実運用でそのような機能が必要になる可能性がある。

（構成員 ネスー株式会社代表取締役 木戸 優起）

- 実証実験に関して、寄贈申込書のアップロードの協力企業数はどの程度か。2 年程前に同様のシステムを作り、食品メーカーのヒアリングに回ったことがある。Web システムにアクセスする際のハードルが高く、別のやり方を考えてくれ、と言われたことがある。中間支援組織で良ければ、食品在庫のアップデート等は協力可能である。このようなシステムがあれば良い。何かあれば声掛けいただきたい。

（オブザーバー 一般財団法人食品産業センター（大石 聡））

- 事業者がシステムに接続することをためらうという話があった。セキュリティ上システムへの接続を制限しているということであろう。そのようなシステムでないと、利用が進まないなので、ご考慮いただきたい。

（オブザーバー 一般社団法人全国スーパーマーケット協会（村尾 芳久））

- 現地に見学に行くことは可能か。スーパーマーケットの立ち位置として、実際のフードバンクでシステムが動いているところを確認したい。

【今後のスケジュールについて】

- 次回は 2025 年 2 ～ 3 月の開催を予定。

(以上)